

日タイ物流政策対話 議事概要

〈両国の物流施策について〉

- ▶ 国土交通省より、総合物流施策大綱の概要等を紹介し、物流を取り巻く環境変化や対策等を説明した。
- ▶ タイ運輸省より、物流インフラの20か年開発計画や、高速道路や鉄道、港湾等の物流インフラの整備状況及び計画等の説明があった。

〈タイにおける物流課題について〉

- (1) スワンナプーム空港 TG ターミナルのオペレーション改善について
 - ・ 国土交通省より、スワンナプーム空港 TG ターミナルの輸出入貨物の荷扱いに長時間を要する事案が常態化していることや、貨物の引取までに数日以上を要する事例が見られたことを説明し、貨物施設や人員を増強するよう関係機関及び管理企業に指示していただきたい旨タイ側へ要請した。
 - ・ タイ運輸省より、昨年末から、コロナ禍前比30%の人員増や10%の取扱増に向けた施設の強化を図っているほか、長期的な対応として、貨物ターミナルの拡張に向けたF/S調査を行っている旨の説明があった。
- (2) タイにおける交通渋滞対策について
 - ・ 国土交通省より、バンコク市内やスワンナプーム空港周辺の交通渋滞や冠水の状況を説明し、改善に向けた渋滞緩和策と今後の計画について質問した。
 - ・ タイ運輸省より、トンネル建設に係るマスタープランの策定や、高速道路の整備計画があり、この組み合わせにより渋滞緩和を図っていききたいとの回答があった。
- (3) 外資規制について
 - ・ 国土交通省より、物流に関係する外資規制の現状について説明し、物流分野における外資規制に関する考え、ならびに規制緩和の見通しについて質問した。
 - ・ タイ運輸省より、規制緩和の可能性につきタイ投資委員会(BOI)と対話を行ってきたが、現段階での外資規制を緩和する計画は無い旨の説明があったほか、タイ投資委員会より特例と認められた場合は、規制が緩和されるとの回答があった。

〈コールドチェーン物流について〉

- ▶ 国土交通省より、コールドチェーン物流サービスの標準化の意義や関連規格の概要、タイ国内における実証輸送結果等について紹介するとともに、輸送及び保管を含むコールドチェーン物流規格の策定や関係省庁間の連携の必要性を説明した。タイ運輸省からは、規格の策定を行うためには、関係省庁の連携が必要であると認識しており、既に関係省庁と連携を検討している旨のコメントがあったほか、日本の協力に対する期待が示された。
- ▶ タイ運輸省より、保冷輸送の品質に関する国内基準(Q Cold Chain)の概要や振興策及び課題等について紹介があり、認証機関を育成するためのトレーニングやワークショップ等の開催を検討している旨の説明があった。また、関係省庁と協力し、同基準の対象品目や輸送だけではなく倉庫保管もスコープに追加する可能性を検討する旨のコメントがあった。
- ▶ タイ工業省工業標準局より、同国内の専門家と連携しISOに設置された技術委員会TC315(コールドチェーン物流)やTC34/SC17(食品安全)への参加状況や、同国内のコールドチェーン物流に関連する規格の概要等について説明があった。国土交通省からは、BtoB分野における国家規格の策定の見通しについて質問し、ISO/TC315の進捗次第では、国家規格に導入することを検討する旨回答があった。

日タイコールドチェーン物流ワークショップ 議事概要

(各講演の主な内容)

- タマサート大学のルット教授より、コールドチェーンの必要性や管理方法、コールドチェーンの需要拡大見込みの背景や、関連規格の重要性等について説明があり、特にインフラ整備と人材育成及び確保の重要性が強調されたほか、タイにおける物流全般の規制及び法律には、多くの省庁が関係しており、各省庁が連携して検討を進めていく必要があるが、政府だけではなく民間事業者や団体から政府に対して意見をを行うことが必要であるとの認識が示された。
- 国土交通省より、コールドチェーン物流政策や標準化の意義、関連規格の概要、タイ国内における実証輸送結果等について紹介するとともに、日本提案により ISO に設置された技術委員会 TC315（コールドチェーン物流）において、JSA-S1004 をベースとした国際規格の発行に向けた議論の状況について紹介した。
- タイ運輸省より、Q Cold Chain の概要や要求事項等について紹介され、2021 年よりコールドチェーン物流サービスに関するトレーニング等を通じて物流事業者への支援を実施しており、2024 年には、官民が連携し Q Cold Chain の対象品目である農産品をはじめとする食品のほか医薬品等を対象品目への追加を検討し、同国内外の物流のネットワークを構築できるよう取組を行う旨説明があった。
- BSI タイより、ISO23412 の策定経緯や要求事項等について紹介があり、特に貨物の積み替え時にコールドチェーンが途切れる可能性が高く、一貫した温度管理の重要性について説明があった。また、ISO23412 に準拠した物流オペレーションを行うためには物流従事者へのトレーニングを行う必要があるとの認識が示された。
- 日本海事協会より、コールドチェーン物流サービス規格の重要性と JSA-S1004 の要求事項及び認証機関が認証審査を行う際のポイントについて説明があり、規格の認証取得を通して、物流事業者の高品質なコールドチェーン物流サービスを可視化することで、競争力の強化に繋がるとの認識が示された。
- BJC Move より、サプライヤーや自社倉庫内、自社倉庫から店舗への配送時における品質管理方法について紹介があり、定期的な監査を行うことにより、高品質な物流サービスを保持することが可能であるとの認識が示された。
- SCG Express から、タイ国内においては、コロナ禍の影響で EC 分野は成長したものの、温度管理マネジメントが課題であり、適切な温度管理がされたコールドチェーン物流サービスが重要であることから、ISO23412 に準拠した配送サービスによる物流品質管理が実現できていること等を顧客に対し訴求していく意向が示された。
- TASC0 より、2022 年 7 月に同社傘下の TYGC 社が JSA-S1004 の認証を取得した経緯や同規格の意義等について説明があった。同規格は食品安全及び衛生管理の向上や、荷主からの厳しい要求にも十分に対応可能な規格であり、業界内の競争力の強化にも寄与するとの認識が示された。また今後の展望として、JSA-S1004 を有する企業であることを顧客に対して情宣し、営業拡販に繋げることや同規格に準拠した保管及び輸送で管理された商品であること等について消費者に対し訴求していく等の意向が示された。